# 週刊新潮『名医の先進治療　第６回 関西編④』で、当院の生野 恭司院長先生が紹介されました。

９月６日号（２０１８年８月３０日発売）

最先端医療情報

名医の先進治療　No.6

永久保存版

関西編④大阪・十三

医療法人 恭青会 いくの眼科

## 年間２００件を超す網膜硝子体 日帰り手術

大阪大学で25年間にわたり網膜硝子体疾患の治療に専念してきた経験から、大学病院と同等の高度最先端医療をもっと身近に提供したいと考え、大阪・阪急十三駅前に開業したのが『いくの眼科』院長の生野恭司医師。「今後もより多くの患者さんの眼を治していきたい」という生野院長に聞いた。

# 網膜硝子体・白内障などの日帰り手術と近視診療を2本柱に最先端医療を実践する

### 許す限り日帰り手術で多くの患者さんに対応

「一人でも多くの患者さんに視力を取り戻す機会を逃してほしくないので、許す限り日帰りの手術で対応しています。最近はご高齢の方が増え、人工透析を受けられている方、認知症にかかっている方などもいらっしゃいますので、入院となるとご本人だけでなくご家族も何かと大変です。また、空きベッドの問題もあります。当院は〝必要なときに必要な手術〟が受けられることを前提に白内障、緑内障、網膜硝子体、眼瞼関連などすべてに日帰り手術で対応しています」と生野医師。網膜硝子体の手術は年間２００件以上、総手術件数では1千件（※）を超えるという同院。そのほとんどの手術を、最先端の機器や技術を駆使し生野医師一人で行う。世界標準のハイレベルな手術である。

院長　生野　恭司（いくの・やすし）

1990年大阪大学医学部卒業。国立大阪病院（現・国立病院機構大阪医療センター）、米国ハーバード大学 Schepens 眼研究所、大阪大学医学部眼科（講師）、金沢大学医学部眼科（非常勤講師／兼任）等を経て、2015年いくの眼科開設。■日本眼科学会眼科専門医、大阪大学招へい教授（兼任）、金沢大学臨床教授（兼任）。

### 先進医療認定施設

また同院は厚労省が定める先進医療「多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術」の認定施設とされているため、多焦点眼内レンズを用いた白内障手術でも、術前術後の診察・検査・薬代が保険適用となり、従来に比べ患者の経済的負担が軽減される。

大学病院と同等の検査機器類。広角撮影用を含む３台の眼底カメラ他、自ら開発したものを含め光干渉断層計も４台導入している。

### 強度近視は失明の原因にも

同院の日帰り手術に並ぶ大きな柱となっているのが近視の診療である。近視の症例数が日本を含むアジア圏は特に多いこともあり、大学病院時代から網膜疾患、強度近視の治療・研究を発表してきた生野医師は、国内外でそのスペシャリストとして広く知られる。

「最近は若年層近視が増えています。低学年からメガネをかけている児童がいますが、簡単に矯正できるからといって近視は軽視できない病気で、わが国の失明原因の第3位です。強度近視に一旦なってしまうとコンタクトや眼鏡などを常時装用する必要があるなど面倒になってしまうだけではありません。さらに病的近視にまで進むと、網膜剥離、緑内障、近視性黄斑円孔、脈絡膜新生血管、萎縮などにより視力が著しく損失され失明の原因ともなりますが、若い時は自覚症状がほとんどなく診断が難しいのが厄介です。初期には視野に黒いものが飛ぶ、光が見える、格子が歪む、一部が見えにくくなるなどの症状が出てきます。おかしいと思ったら眼科を受診しましょう」

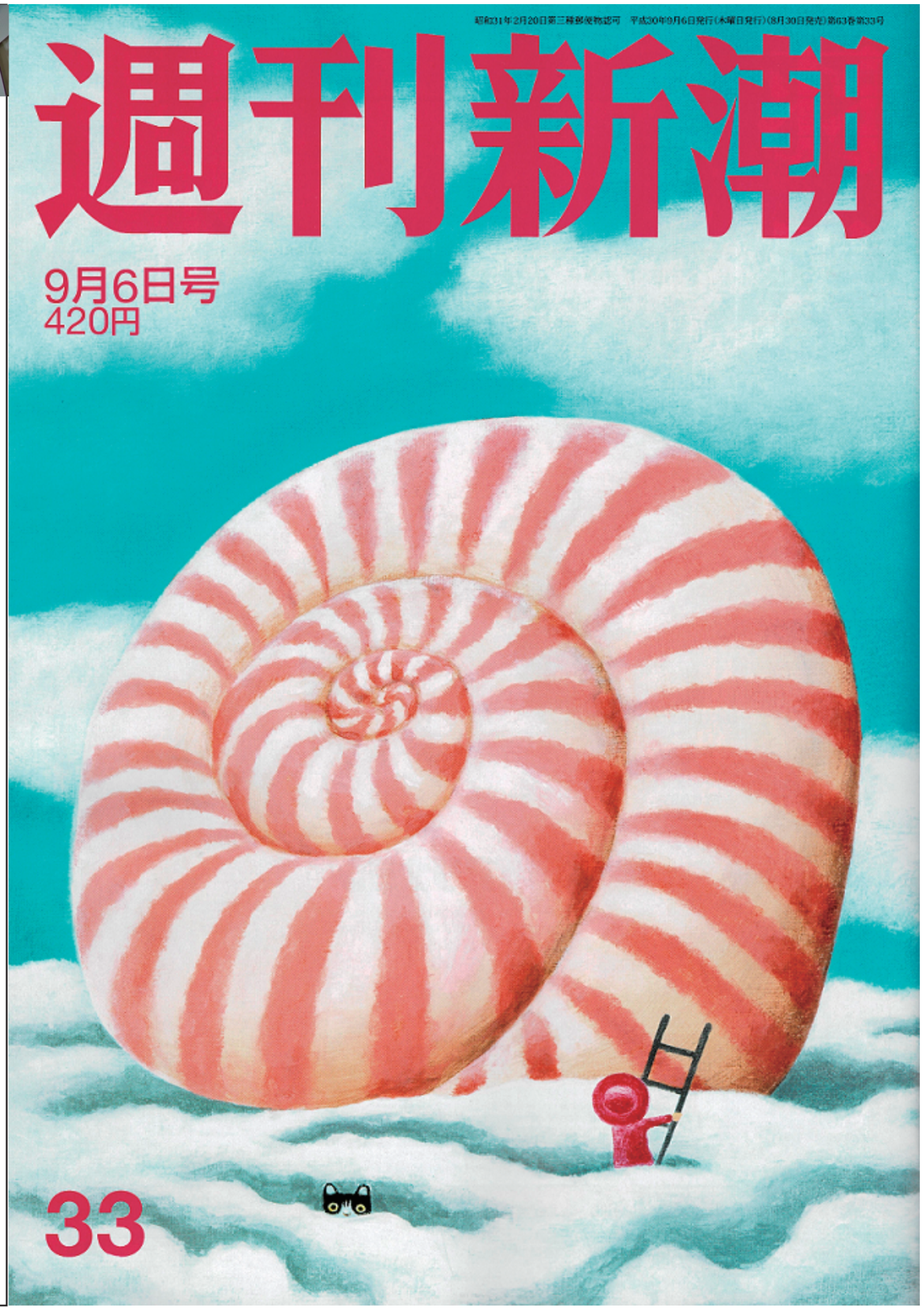
### 小児期における近視抑制が今後のカギ

視力を維持できる可能性はでてきたものの、近視が良くなることはないので「小児期における近視の〝抑制〟が今後のカギとなっています。その近視抑制の効果が証明されているものに、オルソケラトロジー（自由診療）と、低濃度アトロピン点眼があり、当院ではこれらを用いて積極的に低年齢層の近視抑制に取り組んでいます」と生野医師。

一日でも早い社会復帰を目指す患者さんに寄り添った診療を続ける同院。そのホスピタリティー豊かな対応には、患者さんだけでなく、そのご家族の信頼も厚い。

**いくの眼科**
https://ikuno-eye.com/

**診療**◆午前９時－12時（月～土）　午後２時－5時半（火曜午後、木曜午後は『手術』も行います）
※午後の診察で予約がない方は17時15分に受付を終了します　**休診日**◆水・土の午後、日・祝
**所在地**◆大阪市淀川区十三東２丁目9-10十三駅前医療ビル３階　**アクセス**◆阪急「十三」駅東出口すぐ（徒歩30秒）、大阪市バス「十三駅東口」バス停下車。徒歩３分
**電話**◆06-6309-4930

いくの眼科　検索

（※）手術実績　2016年＝1,074件、2017年＝1,013件。詳細はホームページ参照。https://ikuno-eye.com/surgery/#surgery02